

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		Amica Terra『地球にやさしい』という意味を社名として標榜し、「生きとし生けるものの故郷=地球への感謝を忘れず優しくあれば、そこに住まう生命が未永く幸せに暮らしていける」という思いを軸に事業を推進している。								8	9								17	
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		各人が自分のスケジュールに合わせて自由に受講できるオンライン研修システムを導入。法令についての学びの機会を設けている。																	16	
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		各人が自分のスケジュールに合わせて自由に受講できるオンライン研修システムを導入。公正な競争についての学びの機会を設けている。									10								16	
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		各業務について、担当責任者を置き、自律的な運営を心がけている。																	16	
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		自社開発の素材にて特許を取得していることから、全社的に知的財産保護への意識づけを徹底している。								8.2 8.3	9								16	
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		各人が自分のスケジュールに合わせて自由に受講できるオンライン研修システムを導入。個人情報保護についての学びの機会を設けている。																	16	
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		投資家に毎月の定例会にて情報開示の場を持ち、意見交換を行っている。また行政機関とも連携した取組みをしている。																	16	
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスマント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●		現サプライヤーは主要株主であり、毎月の定例会議により情報共有をしている。					5			8	10		12	13	14	15	16	17		
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。	●										9		11		13.1					16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●										8	9									17
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。	●			1	2			5			8			12	13	14	15	16	17		
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスマントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		各人の年齢や経験、居住地も様々な環境の中で、互いを尊重する文化が形成されている。			4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8	10.2 10.3									16.1 16.2 16.7	
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		労働基準法に基づいた勤務体系を取っている。有給休暇取得の推進。「健康・安全第一主義」のもと、健康管理に伴う医療機関での診療を推進している。			3					8.8										
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		労働基準法に基づいた、公平な役割分担を実施している。					5.5			8.5	10.2 10.3									
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		リモートワークの活用や会議数の抑制など、時間外労働を極力なくすための取り組みを行っている。			3		5.5			8.5 8.8	10.3									
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		各人が自分のスケジュールに合わせて自由に受講できるオンライン研修システムを導入。学びたいテーマを選び、豊富に学べる環境が整っている。			4	5.5			8	9										
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		社員の健康診断制度の導入など、心身のケアに取り組んでいる。			3					8									17	
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		定年退職者を採用済。また、定年制を導入せず、本人の意欲に合わせて勤務を継続できる雇用環境に。また、性別や年齢層を区別せず幅広く多様な人材を採用している。			4.4 5.5	5.1			8.5 10.2 10.3									16.7		
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。	●		テレワークや時差通勤、ウェブ会議を積極的に活用している。			3					8	9.1		11	12						
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	●					3	4				8	9.1		11	12						
	21	【ブライブ企業】 ・ブライブ企業に認定されている。	●							3	4			8	9		12						

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1 	2 	3 	4 	5 	6 	7 	8 	9 	10 	11 	12 	13 	14 	15 	16 	17 
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		工場では有害化学物質の使用はなし。また、従来廃棄物とされていた植物残渣を原料として活用することで、廃棄物削減に貢献している。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1		
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		熱量等、最も効率の良い運転状況を分析し、在來の製造方法より熱量が年間2458kwh少ない製造工程を用いている。						7.3						13					
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		従来のプラスチック素材と比べ低温度で製造を行え、炭素の排出を抑制する。年間845kgのCO <sub>2</sub> 削減している。		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15		
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		植物由来原料を主成分に製造した生分解性素材の開発・製造・販売を行っており、プラスチック汚染問題の解決に貢献している。					6.6									14	15		
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		地域の竹材やこれまで廃棄されていた木の皮などの残渣を原料として活用。また将来的には、製品を回収して粉碎・再製品化のアップサイクルの仕組み構築している。								9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15			
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		工場では乾式工法を採用し、汚染水の排出ゼロに取り組んでいる。		2.4					6.1 6.3 6.4 6.6 6.b				11.5			14.1 14.2 14.3	15		17
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		植物由来原料を主成分に製造した生分解性素材の開発・製造・販売を行っている。								9.4			12.4 12.5	13	14	15			
	29	【食品ロスの削減】 ・食品ロスの削減に取り組んでいる。	●		ロイヤルホスト・デニーズでの食べ残し持ち帰り施策に容器の素材を提供した。(2021年5月)※令和3年度 地方公共団体及び事業者等による食品ロス削減・食品リサイクル推進モデル事業に採択されている。	1	2			6.4							12.3		14	15		17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●													11.6 11.7		13.1 13.3		15		17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。	●								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3					
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・"伐って、使って、植えて、育てる"の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●		製材業の過程で排出される、木の皮を原料として有効利用することで、持続的な森林利用に貢献している。					6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15			
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●		植林時の苗のポッドを従来のビニールから置き換えることでプラスチックの軽減に期待されている。					6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●		植物由来原料を主成分に製造した生分解性素材の開発・製造・販売を行っており、プラスチック汚染問題の解決に貢献している。海中分解性能を有する事が第三者機関により証明されている。										12.2 12.5		14					
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.2		13.1 13.3					
	36	【2050年CO <sub>2</sub> 排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO <sub>2</sub> 排出実質ゼロを目指し、計画的にCO <sub>2</sub> 削減に取り組んでいる。	●	●							7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13				17.2	

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1 1 持続可能な開発目標の実現	2 2 食料・農業・營農の持続可能な開発	3 3 健康と福祉のための持続可能な開発	4 4 教育のための持続可能な開発	5 5 個人間の平等と不平等の解消	6 6 環境問題のための持続可能な開発	7 7 持続可能なエネルギー供給	8 8 持続可能な産業と雇用のための開発	9 9 地域社会の持続可能な開発	10 10 不平等の解消	11 11 持続可能な都市化	12 12 持続可能な消費と生産	13 13 気候変動への対応	14 14 海洋の持続可能な開発	15 15 地域社会の持続可能な開発	16 16 持続可能な政治の実現	17 17 各国が協力して実現	
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		廃棄処理されていた植物由来原料を主成分に利用し、あらゆる方に安心して利用いただける製品の提供に努めている。			3.9						9			12.4						
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		販売する成型品において、持ちやすさや使い勝手などを意識して製造を行っている。									9.1	10	11.7						17	
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●		2.3 2.4						7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15			17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●							7						12.2	13.1		15			
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。		●		2.3 2.4						8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15			17	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金制度」を申請する熊本県内のボランティア団体の活動で発生する廃竹材の受入体制をしている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。		●	竹林整備業者・ボランティア団体と協議し、放置竹林問題に係る災害を考慮した取り組みなど行政機関と連携した取組みをしている。				4							11.5		13.1			16		
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●	災害はいつか起こるものと考え、洪水ハザードマップの社員への周知、いかに災害時の被害を最小化するかという観点で、防災計画や社内備蓄などを進めている。	1.5		3	4						10.2	11.5		13.1			16	17	
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●										9		11	12	13.1					
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●	弊社会長が、プラスチック問題等をテーマとした講演を行い関心の喚起につなげており、弊社ストローを工場所在の自治体の小中学校・高校に贈呈し、環境についての啓蒙活動に取り組んでいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	48	【インターンシップ等の受け入れ】 ・職場体験、インターンシップの受け入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	県立工業高校のインターンシップを2年連続受け入れており、今年は2校の受け入れを検討している。				4					8.6		10.2						17	
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●	県内の若者の就職を希望しています。自治体などにPR活動をしている。				4.4					8.5 8.6								17	
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●		2		4.3 4.4 4.5						8.6		10.2		12	13	14	15		17

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。  
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。  
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。